

相生歴史マップ資料 9 なばの 那波野古墳

場所：相生市那波野 国道2号線東行きの山陽道龍野西 IC 側道(宇佐美 GS の東)に入ったすぐに看板有り。古墳のすぐ北側は相生カントリー倶楽部。

相生市那波野に、相生市では最大、兵庫県下でも屈指の大きな横穴式石室が残る 7 世紀中頃の円墳です。

古墳は土を盛り上げて造った各地の首長(豪族)の墳墓で、3 世紀中頃～6 世紀までを古墳時代と呼び、大きく 3 期(前期・中期・後期)に分けられ、7 世紀の飛鳥時代を終末期と区分するそうで、那波野古墳はこの終末期の古墳です。

※古墳時代の時期区分

時期区分	世紀	古墳の形状・特徴	古墳例(有名古墳・相生の古墳)
前期	3c 半～4c	前方後円墳の成立	<small>はしはか</small> 箸墓古墳(奈良県)・ <small>おおさげやま</small> 大避山1号墳
中期	4c 末～5c	前方後円墳の巨大化	<small>だいせん</small> 大仙古墳(大阪府)・塚森古墳
後期	6c	横穴式石室の採用、 群集墳	藤ノ木古墳(奈良県)・狐塚古墳
終末期 (飛鳥時代)	7c	前方後円墳の廃絶、 大王墳は方墳・八角墳に	石舞台古墳(奈良県)・那波野古墳 高松塚古墳(奈良県)・若狭野古墳



那波野古墳入口(昔は自由に入れたそうですが、今は安全と保存のため鍵がかかっています)

那波野古墳は、ゴルフ場や竹林・雑木によって墳丘は相当崩れていますが、原形が残っている南西側の状態から推定して、およそ直径 30m くらいの円墳であったと考えられています。

南側に開口する横穴式石室は、全長約 10.6m、げんしつ 玄室(遺体を安置する)の奥行 3.9m、幅 2.8m、高さは 3.3m の精美な石室が残っています。最大の天井石は、

およそ長さ 3m、幅 2m で重量は 15 トンを超えると考えられています。奈良県明日香村の石舞台古墳の天井石の一つは約 77 トンですから、中央政権には到底及ばないですが、地方の横穴式石室の石材では突出しています。



許可を得て石室内に！



長さ 6.7m 幅 1.7m の羨道



玄室の高さは 3.3m！



玄室内の巨大な石に圧倒されます！



那波野古墳の年代は 7 世紀の中頃とされ、当時中央では、乙巳の変（蘇我入鹿・蝦夷親子の死により蘇我本家滅亡）が起こり、大化の改新が始まり、天皇を中心とする律令国家建設が目指されたころでした。この古墳の規模から、被葬者は中央の政権と極めて密接な政治的関係を持った、この地方を支配した相当の有力者であったと考えられています。

参照：「ふるさと相生の歴史」著者：島田 清

発行者：相生市教育委員会 相生の歴史を考える会

「相生市史 第 1 巻・第 5 巻」編集：相生市史編纂専門委員会

「日本の古代遺跡 3 兵庫南部」著者：松下 勝、櫃本 誠一

「那波野古墳 1982 年 8 月調査」1984 相生市史編纂室

「令和 2 年度 特別展 那波野古墳・若狭野古墳と播磨の終末期古墳」

【展示解説】相生市立歴史民俗資料館